

まちづくり市民フォーラム

～ 語ろう、生かそう、仙台の市民力 ～

報告書



日時:平成22年10月10日(日)午後1時半～4時半

場所:せんだいメディアテーク オープンスクエア

主催/仙台市総合計画審議会

問い合わせ先/仙台市総合計画審議会事務局(仙台市企画調整局総合政策部総合計画課) TEL.022-214-8031

当日のプログラム

オープニングトーク

p.1

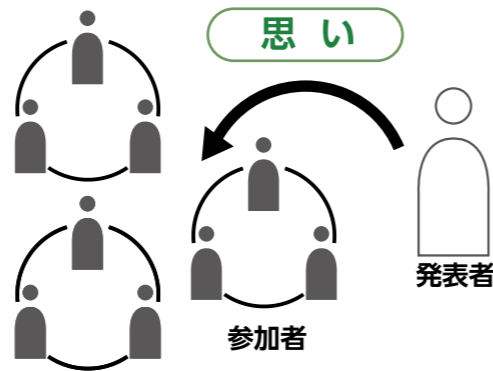
「総合計画」や「市民力」について、仙台市総合計画審議会の大村慶一会長に案内役の遠藤智栄さんがお聞きしました。

まちづくり事例発表&「まち歩きフィールドCafé」結果報告

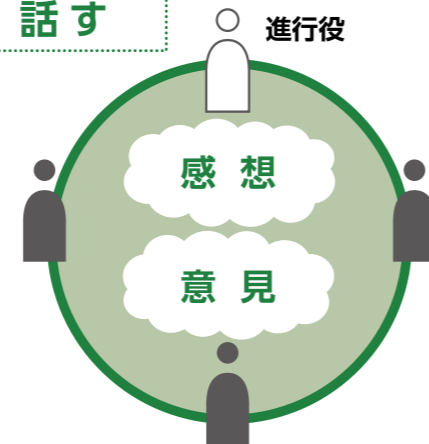
p.2

「市民力」を発揮してまちづくりに取り組んでいる方々からの活動の発表とまちづくりの現場を訪ね、市民の力が輝くまちづくりを考えるワークショップに参加した方からの報告をいただきました。

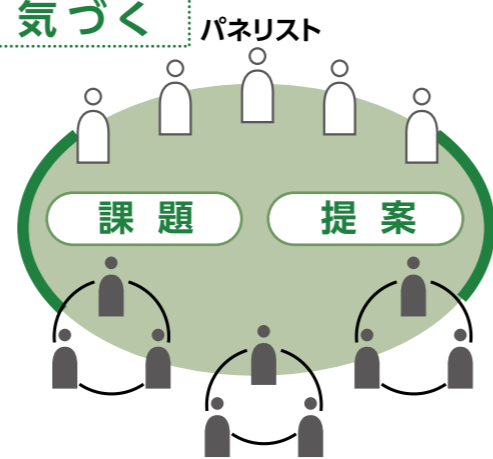
ふれる



話す



気づく



テーブルトーク

p.4

9のテーブルに分かれて、「市民力」を発揮するためにはどうしたらよいか、一人一人の思いと考えを交換しました。

パネルディスカッション

p.8

テーブルトークにも参加した審議会委員が、トークでの意見の紹介、感想やそこで浮かび上がった今後の検討課題を話し合いました。

オープニングトーク

オープニングトークでは、仙台市総合計画審議会の大村会長に案内役の遠藤智栄さんが「総合計画」、「市民力」とは何かというテーマでお聞きし、参加者の皆さんとフォーラムの目的を共有しました。

遠藤 大村先生、「総合計画」って何でしょうか？

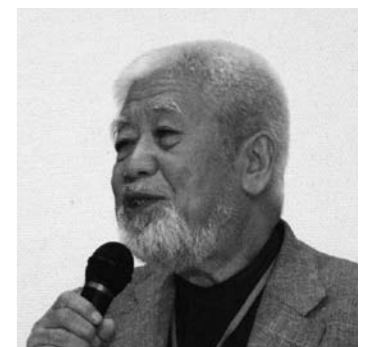
大村 「総合計画」は仙台市のまちづくりの基本的な方向を決めるもので、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の三つで成り立っています。「基本構想」は長期的な視野で市の将来のあり方を指し示す憲法のような存在。「基本計画」は「基本構想」を実現するための、この先10年くらいの計画です。それらに基づいて「実施計画」を立て、具体的な課題に取り組んでいくのです。私たち仙台市総合計画審議会では、そのうちの「基本構想」と「基本計画」について話し合っています。昨今、地方分権の動きが活発になるに伴って、市町村が自分たちでその将来を定める「総合計画」の役割はますます重要になっています。

遠藤 審議会での議論は、今どこまで進んでいるのでしょうか？

大村 去年の10月に奥山市長から諮問を受け、今は「基本構想」を練り上げ「基本計画」を議論している段階です。「基本計画」は審議会での議論もまた十分とは言えませんが、案が固まってしまうと市民の皆さんの意向を反映することが時間的にも難しくなるので、今の段階の中間案を発表して、広くご意見を求めていくことになりました。今日の市民フォーラムも、その一環です。

遠藤 中間案では「市民力」という言葉がキーワードになっていますね。

大村 仙台も含め、日本の社会は人口減少という大きな環境変化に直面しています。少子高齢化が進み景気も頭打ちで、自治体財政も厳しくなる一方です。そういった中で仙台の未来を切り拓くためには、仙台の資産を生かしていくことが大切なことです。



大村 慶一 会長
アーバンデザイナー



遠藤 智栄 さん
オオスデザインスタジオ
プランナー/NPOアドバイザー

遠藤 その資産が「市民力」ということですね。この「市民力」のこれまでについてはどうお感じですか？

大村 仙台には市民の自発的な活動が昔からたくさんあり、「市民力」にはある種の自負があると思います。そうした市民の自発的な活動の力をもっと発揮していただくために、行政や地域と市民活動の協力関係や、行政と民間の新しい関係を築くことも重要だと考えています。まちに活力をもたらすのは市民の知恵や力で、やってみたいことを実現するためとか、直面している課題を解決するための自発的な行動から「市民力」が発揮されていくと思います。

遠藤 ここにお越しの皆さんも、自発的なお気持ちがあって参加された方々です。これも「市民力」なのだと思います。この「市民力」をこれからどうやってはぐくんでいったらいいのか、今日は皆さんと一緒に考えていきたいですね。

まちづくり事例発表 & 「まち歩きフィールドCafé」結果報告

まちづくり事例発表では、実際に「市民力」が発揮されて活動されている事例を3組4名の方からご紹介いただきました。

「まち歩きフィールドCafé」結果報告では、まちづくりの現場を訪ね、市民の力が輝くまちづくりを考えるワークショップに参加した方から、その結果を発表していただきました。

まちづくり事例発表 ①

菅原 康雄 さん 福住町町内会長



「96.1%」。阪神淡路大震災のときに建物の倒壊などで亡くなった方の割合です。建物や家具の転倒防止が「減災」のためにどれだけ大切なのかが分かります。平成15年に発生した宮城県北部の大地震でも、建物の倒壊が多く見受けられました。あの災害がわれわれの福住町で起こったらどうなるだろうか？ 町内会の役員会で話し合った結果、「自分たちの町は自分たちで守る」を合言葉に、町内会の防災活動が発足したのです。

新たに防災の組織をつくったわけではなく、町内会役員をただ横滑りさせただけでしたが、福住では担当者がいないときでも対応できる体制をとりました。

こうした活動がうまくいくと、活動が面白くなっていく。「次は防犯だ」と活動を広げています。

仙台には1,379の町内会がありますが、おのおのが自発的な活動を行えば、災害時でも行政に頼らず解決できる場面が多くなるでしょう。そうすれば、本当に大きな現場に行政の力を集中できます。これもまた、一つの「市民力」ではないでしょうか。



事例発表の様子

まちづくり事例発表 ③

増子良一 さん イートス株式会社 代表取締役 落合祐弥 さん イートス株式会社 営業部



我が社はソフト会社ですので、私たちが繁栄するためには、街が繁栄しないといけません。そうであるならば仙台が、東北が良くなるためにはどうすればよいかをずっと考え活動してきました。そういった活動がCSRと評価され、非常に嬉しく思っています。自分達が住んでいるところが良くなると面白くないということで、無料のICT連絡網システムを始めとする子育て支援、プロバスケットボール仙台89ERSやNPOの支援などを手掛けてきました。インターンシップもその一つです。仙台には大学がたくさんあるのに、卒業生たちは地元に残って就職してくれません。それが残念で14、5年前からインターンシップを続け、毎年20人以上が来てくれます。中には2年勤めてそのまま入社、という人もいます。彼もその1人です。



大学2年生のときの6か月間インターンシップの後、アルバイトを経てそのまま入社しました。生まれは山形県の南陽市です。大学の同級生の7、8割が東京で就職する中で、私が地元の企業に就職した理由は、在学中に市が公募した町おこしのコンテストに応募し、地元の知り合いや友達と一緒にいろいろ行ったのですが、町おこしを継続することはなかなか難しいと感じたからです。そのとき、ちょうどこの会社が行っていることにふれました。現在どうすればビジネスと地域の両方を継続して元気にしていけるのかを学んでおり、将来は郷土で生かしたいと考えています。

まちづくり事例発表 ②

齋藤 光巧 さん 特定非営利活動法人仙台北ガイドボランティア会理事長



二つのNPO活動についてお話をいたします。

私がNPO活動に手を染めたのは、定年という人生のハードルを越えたとき、地域社会に貢献できるものは何かと考えました。企業の中での社会貢献活動は、全国規模での取り組みが多く、社員一人一人の行動が見えにくい一面があり、見える形にできないかと思いました。

一つは、十数年前から活動が続く「仙台・国見おたから研究会」です。これは国見地域に埋没した歴史や文化を掘り起こし、地域に還元する地域特定型の活動です。地域の古老たちに話を聞くことから始め、現地調査や資料収集を重ね、「杜の紙芝居」という創作紙芝居をつくり、地域の幼稚園や老人ホームを回っています。また「杜の都・仙台南見物語」は6集まで発行し、図書館や小学校に約800冊寄贈しました。活動により地域と結びつきが生まれ、小学校の総合的な学習にも招かれて子供たちと一緒に地域の学びを楽しんでいます。

二つ目は、「仙台北ガイドボランティア会」の活動です。これは仙台市教育委員会の歴史と文化財ガイドボランティア養成講座を受講した市民が母体の広域型の活動で、昨年、NPO法人になりました。昨年までの4年間で約6万5千人の方々をご案内し、観光パンフレットも約7万部配布しました。仙台の魅力をよく知っていただくために、「親子クイズラリー」や「歴史探訪会」のイベントも企画しています。

「市民力」とは、市民一人一人が地域社会に対して問題意識を持ち、自分にできることは何かを考え、仙台市のポテンシャルを高めるため、自ら行動に移していくことが、非常に大事なことだと思います。

「まち歩きフィールドCafé」結果報告

松 さゆりさん まち歩きフィールドCafé参加者



「まち歩きフィールドCafé」とは、「市民の力の輝くまちづくり」について市民がグループで見て、聞いて、考察するワークショップでした。幅広い世代の31名が4グループに分かれて活動しました。

私のグループはまず、卸町にある「TRUNK」を訪ねました。旧仙台卸センターホテルを個性あふれるクリエイター専用個室が並ぶオフィスとして改装。若手クリエイターの活動を支援しています。今あるものを生かしつつ、新しいものを生み出していく姿に共感を覚えました。

次は一番町にある「壱貳参(いろは)横丁」。昭和21年に中央公設市場として始まった連鎖街です。ここではNPO法人「まちづくりcom」が、横丁の将来を検討する勉強会を開催しています。

次は「せんだいメディアテーク」です。美術や映像文化を支え、さまざまなメディアを通じて誰でも自由に情報のやり取りを行い、使いこなせるように支援する施設です。

最後に訪問した「あかねグループ」は、若林区にある福祉団体です。住民が気軽に参加できるボランティアの場を提供し、高齢者が在宅で生きがいを持てるように会食、介護、学習の場を提供するほか、ファミリーサポート事業も手掛けています。

こうして各所を訪問した後、「地域のためにできることは何か」をグループごとに考えて、そのCMを15分という制限時間で作成し、発表しました。会って2日しかたっていない、年代も職業も全く異なる人たちでも、限られた時間の中で協力し合い、チームワークをつくることのできることは、喜びと驚きでした。これこそまさに「市民力」ではないかと感じます。今回のように人対人のコミュニケーションで得られたものは、心の満足度が大きく違うと実感しています。人と人との体温や感情、空気が伝わる距離でのコミュニケーションができる場がもっと増えていけば、仙台の「市民力」は一層高まり、もっとすてきなまちになると思います。

テーブルトーク

テーブルトークには、若い学生から高齢者までさまざまな職業や年齢の方々に参加。各テーブルの審議会委員の進行の下、自己紹介と事例報告を聞いた感想を述べ合った後、「もっとこういう活動があったら」「もっとこういう取り組みがあったら」「実践する人を増やすためにはどうしたらよいか」など、「市民力」を発揮するために熱く充実した意見交換を繰り広げました。

「テーブルトーク 三つの視点」

- 《気づきや感想》 発表を聞いて気付いたり、感じたりしたこと
- 《あったらいい取り組み》 もっとこんな「問題の解決」や「魅力の創出」があったらいいなと考えたもの
- 《実践者が増えるために》 取り組もうとする人が増えるためには、どんなことがあればいいかを考えたもの



各テーブルには審議会の委員も参加して、トークの進行役に。総合計画づくりの参考となる貴重な意見をいただきました。

A

《気づきや感想》

「吉式参横丁」に注目／自分に身近／まずは地域を知ってから／市民に任せる気がない／結局変わっていない

《あったらいい取り組み》

学生・学校を活用／拡散社会の解決／コミュニティ社会の促進／「育て」の枠にボランティアを!!／情報流通の促進／交通機関を分かりやすく／高学歴者にも見合う職場を!!／相互向上のためにフィールドワークを／人口政策／「市民力」と「行政力」の融合

《実践者が増えるために》

乗り継ぎの利便性強化／行政が明確に指示すべき／実践者各々のための情報発信／世代に分けて地域づくり／「市民の窓口」／市民と行政のディベート／地域の再認識



B

《気づきや感想》

まちの魅力の出し方／地元への愛着の有無で地域の人々に行動の差／仙台市は無駄遣いが多い

《あったらいい取り組み》

会社・企業のボランティア活動の援助／会社や商店街の人々などの意見交換／地元へのボランティアの働きかけ／地元の声を聞く／バリアフリーを進めるために街中に住宅を／仙台の魅力を引き出すようにお金を有効活用

《実践者が増えるために》

住民や地域の会社が地元へ愛着を持つように説明会を／お祭りの関係者が会社や子どもたちを楽しさをアピールし、協働で物事を行う／連合町内会を活用



記録者として東北学院大学の学生の皆さんが応援。発言やキーワードを模造紙に書き留めました。

C

《気づきや感想》

人と人とをつなぐ縁、きずなが重要／30～40代も含む幅広い世代が参加しやすいように／活動同士のつながりを／地域のつながりを強化／地域づくり、市民活動を更に盛り上げよう

《あったらいい取り組み》

企業の森をつくる／人財・自然などの資源を生かした取り組みを／個々の活動をつなぐ大きな取り組みを／留学生など外国人を交えた取り組み

《実践者が増えるために》

縁づくり／内向きにならない／地域づくりを子どもから大人に／実践レベルの工夫を!／「市民力」を受け取る「行政力」をしっかり



実践している方から面白い意見をお聞きできて、審議会委員としては勉強になりました。「市民力」の発揮に行政が邪魔をしないようにする「行政力」も必要と感じました。



内田幸雄 委員

《気づきや感想》

素晴らしい方々がいる／町内会活動にさまざまなヒントが／市民活動に生かしたい／地域の中でどう自分を生かせるか／若い世代の参加が嬉しい／まちづくりに興味が湧いた／目的意識の共有が大切／市民活動のハードルが高い／まだまだ知らないことが多い

《あったらいい取り組み》

少しでも意欲のある人が集まる場／同じ目的を持った人を集める／市民活動のイメージを上げる／ネット上で情報交換／バスや地下鉄でPR

《実践者が増えるために》

町内会から始める／若い世代に伝えるツールを／教育の場で情報を／仙台市の公式サイトを見やすく／専門の垣根を越えた取り組み

D

E

《気付きや感想》

近所付き合いが大切／横のつながりが大切／仙台らしさが必要

《あったらいい取り組み》

ボランティアへの参加拡大とサポート／若者が町内会を知る仕組みづくり／若者が気軽に集まれる場づくり／町内会のパンフレットづくりなど情報提供へのサポート／まちづくりの場所づくり／まちづくりに対する許容度を上げる／市民の要求を聞く場

《実践者が増えるために》

インターネットなどの情報をきちんと整理／中小企業と行政が協力／インターンシップの情報発信とフィードバック／継続的な取り組みを！／市がもっと積極的に



《気付きや感想》

仙台市民の活動力を感じた／気付くこと・続けることが大切／ハードとソフトの両面で市民力を／ユーモアが良い(イトスさん)／活動連携のための情報発信を／教育界などのつながりが大切

《あったらいい取り組み》

壱式参横丁などの魅力をアピール／大学を都心部になど地区計画をもっと強化／町内会などでのボランティア活動の強化、人材育成／異世代との交流の場を／地域のイベントにもっと魅力を／市民の意識、興味を引く

《実践者が増えるために》

農業の魅力伝える／雰囲気の良いまちをつくる／マンパワーと行政の協力／市職員をもっと市民に巻き込む

キーポイントは「人づくり」と「つながりづくり」。地域の合意形成を上手にしながら引っ張っていくコーディネーター的な人材をどう育てるのか。市民が意見をぶつけ合い、育て合うような出会いや情報共有の場づくりも審議会で検討したいと感じました。



針生英一 委員

G

地域の悩みを相談できるコンシェルジュみたいな存在が地域に必要という意見がありました。地域の祭りや運動会を通して、世代間交流を深めていくのはどうかという提案もありました。

参加者:根田さん



《気付きや感想》

町内会の活動などを知りたい／地域の活動の話をしたい／地域活性化のカギを知りたい／仙台・宮城のNPO活動などを知りたい

《あったらいい取り組み》

仙台市を知るツールをもっと良くして／地域の文化、伝統、誇り、魅力を伝える場を提供／市民センターの役割や活用法をPR／対面で話ができる総合的な相談窓口を市民センターや市役所に



《気付きや感想》

「市民力」がPR不足／老人が安心できるゆとりを／生命の大切さを子供たちへ／まちがどう変わるのか心配／いろんなことに参加していきたい／きっかけが大切／視野が広がった

《あったらいい取り組み》

家に閉じこもりがちな人たちが参加できるイベント／防災名簿等の整備に道筋を／健康や防災の知識等バラバラなものをつなげる／「市政だより」の充実／アドバイスやきっかけの提供／転入者への支援策を地域と企業の連携で／街灯の数を増やす

《実践者が増えるために》

防災名簿の普及／卸町や壱式参横丁などの事例を市がPR／「市民力」を引き出す企業応援部隊／夜間や土日の開催で若者の参加を／行政が目線を下げる／活動を称賛する制度

自分からアピールしたり他の人がどんなことに取り組んでいるのかを知ったりする機会が少ないので、知ったり、行ってみたい気付けたりする場があったらと思いました。また、何かをやりたいときに応援してくれる人や企業がいたらよいという意見もありました。



参加者:入江さん

H



参加者:米本さん

困っていることは皆一緒だと分かりました。地域をどうやって活性化するのか、若い人からお年寄りまで皆で考え、良い仙台のまちを頑張りつつつくっていききたいと思いました。

《気付きや感想》

たくさんの活動があることへの驚き／団体を知ることができてよかった／人の数だけ・思いの数だけ切り口がある／自分から参加していきたい／大学生も「市民力」に参加すべき／若者の考え方も知りたい／高齢化の問題／なかなか実行できない現実／公園再生へのイベントを行っている

《あったらいい取り組み》

若者の意志を発信できる場／インターネットの活用／場所の開放を／いろいろな年代が集まれるイベント／若者が楽しめるアミューズメントパーク／人材育成拠点センター／ボランティアを探す仕組み／おやじ託児所／ゴミを地域内でリサイクル

《実践者が増えるために》

新参者や後継者が参加しやすい仕組み／学校への参入しやすさ／まとめてくれる人材／新しいことをするときの行政の支援／複数の法律によるしほり



会場に訪れてくださった方からのご提案

《気付きや感想》

こんなに多様な方々がまちづくりに興味を持っている仙台に驚き／通りがかりに見ている人が大勢いた／継続的に取り組んでほしい／若年層の参加が少ない／学生の多い街なので、若者がまちづくりに参加する仕掛けを！／異分野、異業種の人たちが触発し合って全く新しい発想が生まれる卸町に期待！／労働の場を確保／行政のコスト削減に歯止めを／「まち歩きフィールドCafé」は、地域の力を発見し共感しあう良い取り組み／障がい者は計画づくりに参加しているのか？

《あったらいい取り組み》

「行政力」「議会力」も必要／賃貸居住者向けの地域防災情報提供／町内会の草の根情報収集／仙台のいいところを友達や親戚に自慢しよう!!

《実践者が増えるために》

仕事や遊び、子育てに忙しい人でも力になれる「一口参加」／実践者が連携できる仕組みを／企業の理解や関心を得るためのPR



発言を記録した横造紙はトークの後で掲示し、どんな提案や意見が出たかを「見える化」しました。



パネルディスカッション

〈パネルディスカッションの話題(テーマ)〉

- テーブルトークでいただいたご意見について、どのように受け止めたのか。
- テーブルトークの内容を、どのように今後の計画づくりに生かしていきたいか。

テーブルトークに参加して、皆さんの熱気がかなり伝わってきました。仙台の市民の皆さんは、「何かしたい」という意志を大変に強くお持ちです。けれどもその中で、いったい誰とどのようにつながるとそれが実現できるのか、その道筋が見えないためにフラストレーションがたまった状態ているのかなとも思いました。



〈コーディネーター〉
宮城大学事業構想学部教授
宮原 育子 副会長

誰もが、何かしたい、何かかしたいという気持ちを潜在的に持っている一方で、互いに何をしているかわからないことが「市民力」を発揮する上でボトルネックになっているようです。そのためには人と人との直接的なコミュニケーションが意外と重要で、お茶飲みのような気軽な場から共通の問題意識をもつ人が集まる場まで多様な形で参加できる場がほしいという意見が出されました。



〈パネリスト〉
有限会社
FIELD AND NETWORK
取締役
大草 芳江 委員

学生や転勤者などが地域の組織とどうつながっていったら良いかは悩みがあるようです。直接ではなく学生とPTAや学生と幼稚園など違うところからつながることも一案です。また、活動している団体が横につながる場の設定や情報を幅広く伝えていくことが「市民力」をはぐくんでいくという意見が出されました。
「市民力」を高めていくためには、それなりの投資と継続的な時間が必要で、情報提供をしっかりとやることか、今日のような集まりをもっと頻繁に開くとか、こうした投資をしっかりとやっておかないと、一過性に終わってしまいます。



〈パネリスト〉
東北大学大学院経済学研究科
教授/同地域イノベーション
研究センター長
大滝 精一 委員

情報がはらんで、何をしたら良いかわからない。世代間もバラバラに分断されている。これらが地域の「市民力」を失わせているのではないのでしょうか。
非日常的には地域の人たち自身で運動会や祭りを再生したり、日常的には小学校を拠点に地域学習を根付かせたり、いろいろと仕組みを変えていくことで、地域の力を再生できるのではという意見が出されました。



〈パネリスト〉
東北大学大学院工学研究科
教授
小野田 泰明 委員

仙台の暮らしやすさをつくり出していくためには、「市民力」がもっともって発揮できるきっかけや仕組みが必要で、住民としても行政と役割分担し、お互い共同作業で課題に対応していく必要があるという意見が出されました。



〈パネリスト〉
仙台商工会議所
専務理事
間庭 洋 委員

まとめ

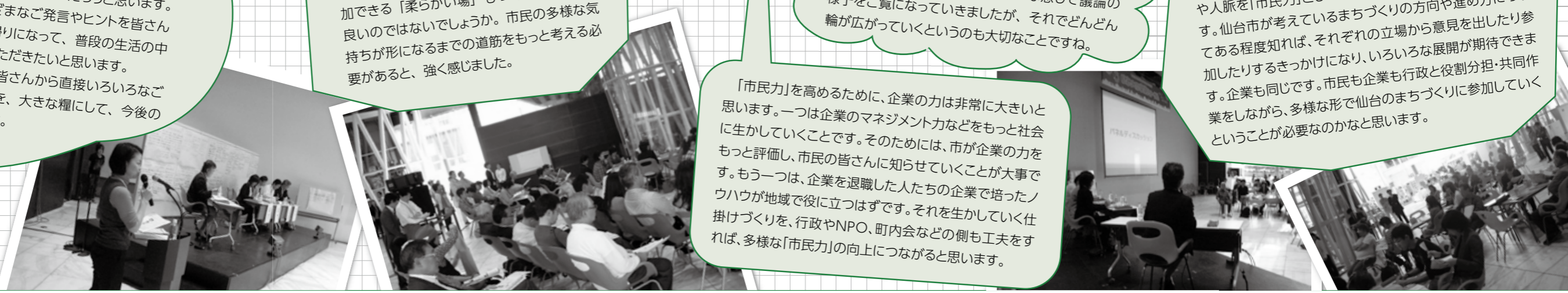
仙台の人は、「まずきちんと決めてから」と堅く考えてしまうのかもしれませんが、自由に考え、良いことだと思ったら少しずつ動き、街中にいろいろな活動拠点ができていく形も良いのだらうと思います。今日出されたさまざまなご発言やヒントを皆さん自身が地元にお持ち帰りになって、普段の生活の中でも、ぜひ展開していただきたいと思います。今回のフォーラムで皆さんから直接いろいろなお意見をいただいたことを、大きな糧にして、今後の審議に生かしていきます。

「市民力」と聞くと、まず町内会や市民活動をイメージしますが、そういった完成された場だけではなく、もっと多様なレベルで参加できる「柔らかい場」もつくっていただければ良いのではないのでしょうか。市民の多様な気持ちが形になるまでの道筋をもっと考える必要があると、強く感じました。

「市民力」とは聞きなれない言葉ですが、市民の皆さんが集まって真剣に議論されている今日のこの状態こそ「市民力」と言うのだから実感しています。メディアトークを訪れた通りがかりの方が「これ何なんだろう」とみている感じで議論の様子をご覧になっていきましたが、それでどんどん輪が広がっていくのも大切なことですね。

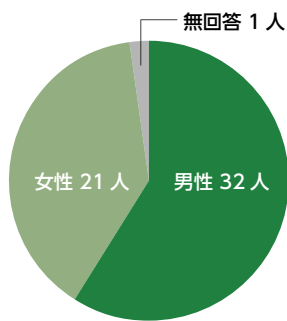
「市民力」を高めるために、企業の力は非常に大きいと思います。一つは企業のマネジメント力などをもっと社会に生かしていくことです。そのためには、市が企業の力をもっと評価し、市民の皆さんに知らせていくことが大事です。もう一つは、企業を退職した人たちの企業で培ったノウハウが地域で役に立つはず。それを生かしていく仕掛けづくりを、行政やNPO、町内会などの側も工夫すれば、多様な「市民力」の向上につながると思います。

市民にはいろいろな顔があります。働いている人、学生、退職した方。所属するコミュニティも多様で、しかも多重です。それぞれが所属するコミュニティで培ったノウハウや人脈を「市民力」として発揮していくことは非常に重要です。仙台市が考えているまちづくりの方向や進め方についてある程度知れば、それぞれの立場から意見を出したり参加したりするきっかけになり、いろいろな展開が期待できます。企業も同じです。市民も企業も行政と役割分担・共同作業をしながら、多様な形で仙台のまちづくりに参加していくことが必要なのかなと思います。

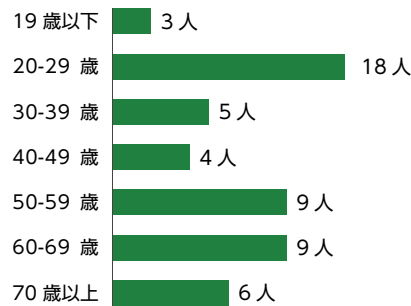


回答者数 参加者 87 人中 54 人 (回答率 : 62.1%)

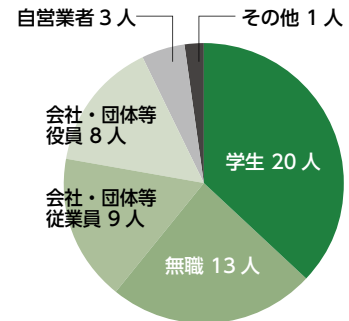
■ 性別



■ 年齢



■ 職業



自由回答より

- いろいろな年代や地域の方々と同じテーマについて考え、意見をぶつけ合えたのは非常に有意義だった。
- テーブルトークでは、初めて知ったことや、常に自分が思っていたことなどを語り合え、とても有意義だった。
- テーブルトークに若い方が多かったが、真剣に取り組んでいる姿に明るい未来を感じ、この思いを大切にしていかなければと思った。
- きちんとした考えがある方が多く、行政に深く関わりたいという気持ちが強まった。
- 仙台のために活動している方の話を聞いてとても刺激を受けた。身近なことから「市民力」を高めていきたいと思う。
- 直接対話することの大切さを考えた。人と人との出会いの場、いろいろな視点を学ぶ場を生み出すことができればと思う。
- 「市民力」を高めることが将来の仙台を高めていく。人対人の直接的なコミュニケーションをはぐくんではいかなければならないのだろうと感じた。
- ボランティアなど、なんらかの形で社会と関わりたいと思っている人が多い中、なかなか実践できていないのが現状だ。そこで、我々学生が自ら行動を起こさなければいけないと感じた。
- まちづくりの原点は、市民の「こんなのがあったらいいなあ」という意見の集約だと思うので、地域の拠点を市民センターなどに設定したら貴重な意見が出ると思う。
- 市民が気軽に集える場所は、公共施設だけでなく企業やNPOも提供できると思う。
- 「市民力」を高めるためには“投資”と“時間”が必要という考えは大切だと思った。
- 策定プロセスへの市民参画のあり方を明確化していくことが重要だと思う。
- 簡単に紙1枚のレベルで誰にでも分かりやすく情報を伝える工夫が必要。情報ツールも紙、ネット、口コミなどそれぞれの市民にあったものが必要。
- 行政の縦割りを改革していかないと「市民力」は高められないと思う。
- 計画策定時だけでなく、継続してこのような場を設けるべき。